

妖怪と伝説マップ



青梅の妖怪と伝説

妖怪や伝説は、昔話や不思議な出来事などが「物語」となり、地域ごとに姿を変えながら、人から人へと長い時間をかけて語り継がれてきました。

このガイドブックは、青梅市内に伝わる妖怪や伝説などの伝承を紹介しています。

本書を片手に青梅市内を巡りながら、青梅の「物語」を紐解いていきましょう。

番号	妖怪・伝説の名前	場所	ページ
①	ムジナ婆	清宝院	3
②	猫地藏	常保寺	3
③	慈悲深いえんまさま	梅岩寺	4
④	流転のサル人形	住吉神社	4
⑤	呑竜さま	延命寺	5
⑥	テンマル	乗願寺	5
⑦	弘法大師	男井戸女井戸	6
⑧	裏宿七兵衛(畑跡)	七兵衛地藏尊	6
⑨	裏宿七兵衛(屋敷跡)	七兵衛公園	6
⑩	裏宿七兵衛(墓)	宗建寺	6

番号	妖怪・伝説の名前	場所
⑪	平将門	殿坂
⑫	待ち伏せオオカミ	住吉神社付近
⑬	雪女(昭和レトロ商品博物館)	昭和レトロ商品博物館
⑭	雪女(雪おんな緑の地)	調布橋付近
⑮	休哲さま	田稲葉家住宅
⑯	あずき婆	宗建寺
⑰	権左淵の河童	友田レクリエーション広場付近
⑱	デイドラボッチ	大幡神社
⑲	コトガール	鮎美橋付近
⑳	おかむろっ子	下奥多摩橋付近

※この冊子に掲載した妖怪や伝説以外にも
青梅市内には、数多くの伝承が現在まで
語り継がれています。



ページ	番号	妖怪・伝説の名前	場所	ページ
7	①	大ムカデ	千ヶ瀬神社	12
7	②	こんにやく岩	こんにやく岩	12
8	③	腹立ち地蔵	忠堂院	13
8	④	ズンスク大尽	明治橋付近	13
9	⑤	百いらす	青梅袖木苑地駐車場付近	14
9	⑥	御岳山のおいぬ様	武蔵御嶽神社	14
10	⑦	山上の霊木	安楽寺 軍荼利明王堂	15
10	⑧	岩蔵の大岩	岩蔵の大岩	15
11	⑨	橋を守るへび	間修院	16
11	⑩	竜神さま	天寧寺	16

左記の妖怪や伝説の
詳しい場所などは、こちらの
二次元バーコードからチェック！



① ムジナ婆

清宝院の近くの坂を通りかかると上半身しかない老婆・ムジナババアと出会うという。ムジナとはタヌキのことで、死んだタヌキが化けているという。



施設名：清宝院
住 所：青梅市大柳町1203
交 通：青梅駅から徒歩10分



② 猫地藏

常保寺に招き猫の形をした珍しい地藏がある。かつて身寄りのない男が飼っていた猫を供養するために彫り、朽ちるのを惜しみ常保寺へ寄進したという。

施設名：常保寺
住 所：青梅市滝ノ上町1316
交 通：青梅駅から徒歩7分



③ 慈悲深いえんまさま

梅岩寺の閻魔堂には、たくさんの地蔵様に囲まれた閻魔像が安置されている。安産や子育てを願う絵馬が奉納され、慈悲深い閻魔様として親しまれている。



施設名：梅岩寺

住 所：青梅市仲町235

交 通：青梅駅から徒歩6分



施設名：住吉神社

住 所：青梅市住江町12

交 通：青梅駅から徒歩5分

④ 流転のサル人形

青梅の祭りで使われていたサル人形。災いが続くため、江戸、川越、青梅を流転したという逸話の残るのが住吉神社である。



⑤ 呑竜さま

江戸初期の僧・呑竜上人は、貧しい子や捨て子を引き取り育てた。延命寺の呑竜上人を祀る堂には、子育て呑竜さまとして信仰され、古い絵馬が残されている。



施設名：延命寺

住 所：青梅市住江町82

交 通：青梅駅から徒歩6分

⑥ テンマル

青梅独特の妖怪で、ムササビのように空を飛び、鋭い爪と牙を持っている。乗願寺の山門の大杉にはむかしからテンマルが出ると言われていた。



施設名：乗願寺

住 所：青梅市勝沼3-114

交 通：東青梅駅から徒歩8分



⑦ 弘法大師

弘法大師がこの地を訪れた際、夫婦が崖を下りて水を汲んだ親切に感動し、杖を突いて湧水を出現させた。湧いた二つの井戸が「男井戸」「女井戸」と呼ばれている。



施設名：男井戸女井戸
住 所：青梅市大柳町1581
交 通：青梅駅から徒歩16分



施設名：七兵衛地蔵尊 ほか
住 所：青梅市仲町268-9 ほか
交 通：青梅駅から徒歩4分 ほか

⑧⑨⑩ 裏宿七兵衛

義賊・裏宿七兵衛は、金を盗んでは困窮者に与え、人々に慕われたという伝説が残っている。七兵衛は一夜に十里を往復するほど足が速く、その速さは胸元に置いた菅笠が落ちないほどであったと言われている。



⑪ 平将門

平将門が敵に追われ、多摩川を渡り馬で駆け上がったとされる坂は「殿坂」と呼ばれている。将門はその後、金剛寺で梅の枝を刺したと伝えられ、それが「青梅」の地名の由来となった「誓いの梅」である。



施設名：殿坂

住 所：青梅市大柳町1203付近

交 通：青梅駅から徒歩10分



施設名：住吉神社付近

住 所：青梅市住江町12付近

交 通：青梅駅から徒歩5分

⑫ 待ち伏せオオカミ

ある者が青梅宿からの帰り道、住吉神社の裏道で謎の足音に追われた。狼だと思い自宅に駆け込み、節穴を覗いたところ、狼がじっと佇んでいた。「ごくろうさん！」と言うと狼は立ち去り暗闇に消えたという。



⑬⑭ 雪女



明治時代の作家・小泉八雲の著書『怪談』の中の「雪女」の舞台は「千ヶ瀬の渡し」であるという説がある。付近の調布橋には「雪おんな縁の地」の碑が建てられ、また、昭和レトロ商品博物館には「雪女の部屋」がある。



施設名：調布橋付近

住 所：青梅市千ヶ瀬町5

交 通：青梅駅から徒歩15分

ここが
ポイント

小泉八雲の雪女伝説

武蔵の国で木こりをしていた老人・茂作と少年・巳之吉は、吹雪の夜に渡し場の小屋へ避難する。夜更け、白装束の女（雪女）が現れ、茂作を凍死させるが、若い巳之吉だけは命を奪わず、「この夜のことを誰にも話すな」と約束させる。その後、巳之吉は成長し、「お雪」という美しい女性と結婚し、幸せな家庭を築く。ある夜、昔の出来事を語った瞬間、お雪の正体が雪女であったことが明かされる。彼女は約束を破られた怒りを見せるが、子どもたちのために命までは奪わず、雪とともに去っていく。

⑮ 休哲さま

江戸中期の名医・足立休哲は、貧しい者からは一文も取らず、人望も厚く、死後は「休哲さま」として祀られ、祠が建てられた。もともとは個人宅の敷地内に祠があったが、現在は、旧稲葉家住宅の庭に移されている。



施設名：旧稲葉家住宅
住 所：青梅市森下町499
交 通：青梅駅から徒歩11分

⑯ あずき婆

宗建寺の東を流れる別当沢に出る妖怪で、夜中にザキザキとあずきをとぐ音がするという。「あずきとごうか、人にとって食おうか…」という唄をうたっていることもあるらしい。



施設名：宗建寺
住 所：青梅市千ヶ瀬町6-734
交 通：青梅駅から徒歩8分



①7 権左淵の河童

友田レクリエーション広場の近くにある多摩川の権左淵には、たくさんの魚がおり、その魚を食べるため、拝島に棲んでいた河童が来たと伝えられている。



施設名：友田レクリエーション広場付近
住 所：青梅市友田町5-340
交 通：四谷橋バス停から徒歩2分



施設名：大幡神社

住 所：青梅市長淵9-966-2

交 通：万場坂バス停から徒歩30分

①8 デイダラボッチ

大幡神社の石段の左に、幅1.2メートルほどの手洗い石があり、その石はまるで、大きな手の跡のようで、デイダラボッチが立ち上がった時についた手の跡と伝えられている。



①9 コトガーラ

鮎美橋から下流を見ると、左岸に河原が見える。ここは、落ち武者が籠手を落としたと伝えられている場所で、「小手河原」と呼ばれるようになり、転じて「コトガーラ」となった。



施設名：鮎美橋付近

住 所：青梅市千ヶ瀬町6

交 通：青梅駅から徒歩11分



施設名：下奥多摩橋付近

住 所：青梅市千ヶ瀬町2

交 通：東青梅駅から徒歩14分

②0 おかむろっ子

下奥多摩橋から下流を見ると、かつて「河辺の渡し」があった場所が見える。この付近には大きな柳の木があり、そこには、おかむろっ子（おかつぱ頭の女の子）がいて、「遊ぼうよ」と水の中に引き込まれてしまうという。



②① 大ムカデ

出雲太郎という人物が、千ヶ瀬神社の付近まで来たとき、地響きとともに、大ムカデが襲い掛かってきた。出雲太郎は弓矢で大ムカデを倒したと伝えられている。



施設名：千ヶ瀬神社

住 所：青梅市千ヶ瀬町2-117

交 通：東青梅駅から徒歩11分



施設名：こんにやく岩

住 所：青梅市駒木町2

交 通：青梅駅から徒歩30分

②② こんにやく岩

林道沿いにある高さ5～6メートルの大岩は「こんにやく岩」と呼ばれ、2月8日の丑三つ時には柔らかくなり、ワラでも刺すことができると思えられる不思議な岩である。



②③ 腹立ち地蔵

忠堂院の桜の下にある「腹立ち地蔵」を動かして花見を楽しんだ男衆が、夜に急な熱と苦しみに襲われた。隣人の助言で地蔵を元の場所に戻し、詫びると症状が治ったと伝えられている。



施設名：忠堂院

住 所：青梅市柚木町3-674-1

交 通：軍畑駅から徒歩12分

②④ ズンズク大尽



施設名：明治橋付近

住 所：青梅市和田町1

交 通：明治橋バス停から徒歩1分

明治橋付近にある家に伝わる話である。元日のお祝膳を用意したものの、その全てをタヌキたちに食べられてしまった。しかし、それを咎めることをせず、見守っていたところ、それ以降、その家では良いことばかりが続くようになったという。



②⑤ 百いらず

青梅柚木苑地駐車場の付近は、冷たい風が吹き降ろし、人々が身震いしながら急ぎ足で通り過ぎると伝えられている。その寒さは、道に百文が落ちていても拾わずに通るほどであったため「百いらず」と呼ばれるようになった。



施設名：青梅柚木苑地駐車場付近
住 所：青梅市柚木町3-643
交 通：軍畑駅から徒歩9分



②⑥ 御岳山のおいぬ様

日本武尊が山鬼を倒し、霧に迷った時、白い狼が現れ、日本武尊を導いた。日本武尊は白い狼に感謝し、御岳山の守護神「おいぬ様」として祀られたという伝説が残っている。

施設名：武蔵御嶽神社

住 所：青梅市御岳山176

交 通：御岳山駅から徒歩20分



②⑦ 山上の霊木

成木地区にあった楠の老木は、青白い光を放ち不気味な声を発するため村人が恐れていた。巡錫中の僧はこれを村の守り本尊とすべきだと説き、木を伐り倒し、軍荼利明王像を作った。成木の地名は「木が鳴った」ことに由来すると伝わる。



施設名：安楽寺 軍荼利明王堂
住所：青梅市成木1-607
交通：成木一丁目自治会館前バス停から徒歩3分

②⑧ 岩蔵の大岩

日本武尊が戦の傷を癒した鉱泉がある地で、武具を岩に納めたことから、この地区は「岩蔵」と呼ばれるようになったと伝えられている。高さ6mの大岩はパワースポットとして知られる。



施設名：岩蔵の大岩
住所：青梅市小曾木5
交通：東京炭鉱前バス停から徒歩8分



②9 橋を守るへび

聞修院の前の木橋には青大将が2匹住みつき、村人が「おへびさま通してください」と声をかけるとへびは退くが、押売りやこそどろがその言葉を知らずに橋を渡ろうとするとへびが動かず、結局逃げ出したという。



施設名：聞修院

住 所：青梅市黒沢3-1578

交 通：柳川バス停から徒歩10分



施設名：天寧寺

住 所：青梅市根ヶ布1-454

交 通：東青梅駅から徒歩20分

③0 竜神さま

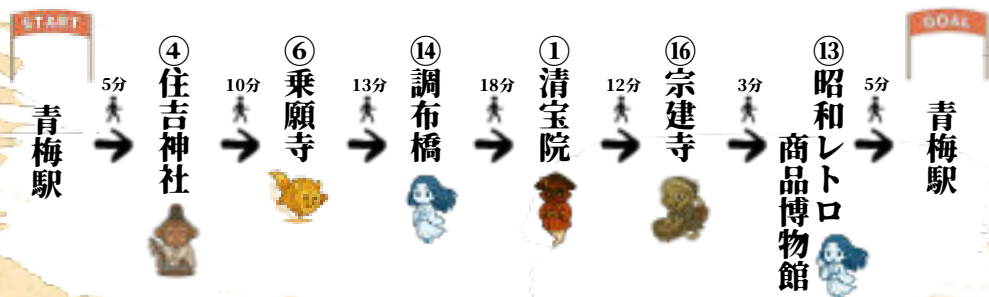
竜神さまの夢を見て授かった子は天寧寺を建てて、神岳通竜禅師と称された。禅師はこの世を去るとき、鱗を残して姿を消したため、竜神さまの化身であったと伝えられている。



おすすめモデルコース

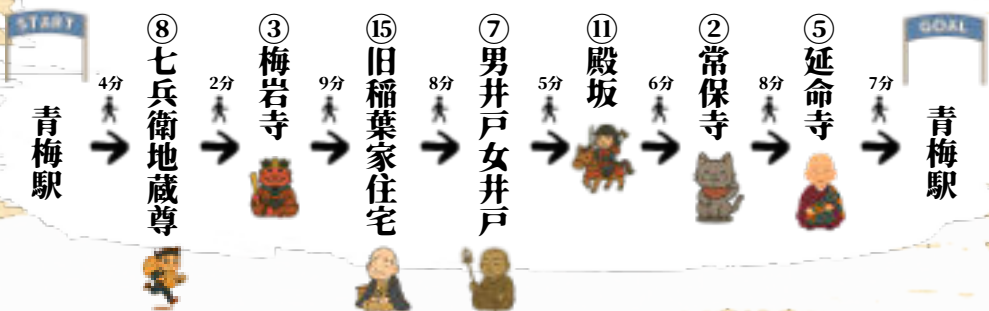
その① 『青梅宿の妖怪を巡るコース』(所要時間:約2時間)

江戸時代に宿場町として栄えた青梅宿(現在の青梅駅周辺)を散策して、神社仏閣を巡り、妖怪たちを探すコースです。



その② 『神様や偉人の足跡を辿るコース』(所要時間:約1時間30分)

市内に伝わる神様や伝説の人物たちが遺した足跡を辿るコースです。



青梅市の観光についてもっと知りたい方に朗報



OmeBlue公式Instagramで
観光スポットやグルメ情報など
ゾクゾク発信中! 詳しくはこちら



主な参考文献

- ・青梅市教育委員会『青梅のむかし話』(1994)
- ・青梅市史編さん委員会『増補改訂青梅市史』(上巻・下巻)(1995)
- ・小川秋子『青梅おちこちこぼれ話』(2008)
- ・小川秋子『青梅おちこちこぼれ話 姉妹編』(2015)

見学の際の注意点

- ・神社仏閣では法事や祭事を行っている場合がありますので、見学の際はご配慮ください。
- ・危険な場所や禁足地には絶対に立ち入らないでください。
- ・駐車場のない場所が多くありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。自動車で廻られるときは、事前にコインパーキングなどを調べてからお越しください。
- ・各施設の開館時間や休業日などをあらかじめご確認ください。

『青梅の妖怪と伝説ガイドブック』

発行者 青梅市シティプロモーション課
〒198-8701 東京都青梅市東青梅1-11-1
電話番号 0428-22-1111 (代表)

発行日 令和8(2026)年3月27日

